

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992500086		
法人名	社会福祉法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム かいなの郷		
所在地	高知県高岡郡佐川町乙3358-7		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誰もが訪れやすい雰囲気大切に、入居者だけでなく職員も荷福地区の住民としての自覚をもち、来訪者との関わりを持つよう努めている。

利用者は、かいなの郷に入居された後も地域との繋がりが途切れないように、施設での行事には関係者だけでなく、地域住民や行政にも呼びかけをし、皆がかいなに集って「楽しい」と感じていただけるような催しを計画している。

また、入居者が施設外へ出向き、佐川町の住民として参加できる行事などで、昔からの生活を何らかの形で継続していけるよう努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3992500086-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3992500086-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成26年2月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から山沿いに入った地区の住宅団地に立地し、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。新興住宅地である団地は住民層が若く、勤務の関係で平日は閑散としているが、休日や夏休み等には近くの公園に子供たちの声が多く聞こえる。管理者は事業所を地域で暮らす大家族と捉え、入居者を家族として、家庭的な楽しい団欒と笑顔のある暮らしを日々支援している。管理者は職員に、自分たちが楽しいと感じる事は利用者も楽しい事であると伝え、数多くの楽しみのある提案を促し、利用者が笑顔で暮らし続けられるように努めている。事業所が地域の一員となるために、地区総会に出席し地域住民と同じく回覧板を回し、一斉清掃や防災訓練に参加している。その結果、事業所の防災訓練にも地域の協力が得られている。地域住民とも顔馴染みになり、事業所が定期的開催するカフェや夏祭りへの参加者が増え、時折り行政関係者も参加するなど解放的な事業所運営を行っている。管理者はリーダーシップを発揮し、職員と一丸となって地域に根差した利用者本位の生活を支援している。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念があり、職員全員がその理念を理解し、理念に沿った支援が提供できるよう努めている。	事業所で暮らす皆が笑顔になれることを理念に掲げ、利用者の笑顔を日々の生活のバロメーターにして個々の表情に留意し、職員も笑顔での支援を実践している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所は密接に関連する施設でもあり、理念を共有して実践している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所も地域住民としての自覚を持ち、日頃から地域の活動にも積極的に参加して、利用者と地域との繋がりが途絶えないよう支援している。	地区会に加入し総会にも出席して、地域の情報は回覧板から得ている。年2回の地区清掃活動や防災訓練、行事等に地域の一員として参加している。定期的に開催する事業所のカフェや夏祭りには近隣住民の参加が多くなり、地域とのつながりが深まってきている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で行う行事ごとにも地域住民を招き、認知症の方とのふれあいの中から、事業所の活動や認知症についての理解を深めてもらえるよう支援している。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や取り組み状況について話し合い、サービスについての助言や要望も取り入れた、よりよいサービス提供が実施できるよう努めている。	運営推進会議は行政職員・民生委員・家族等の出席を得て、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。事業所の入居者状況や活動報告・予定事業などが話し合われているが意見が少ない。また、評価結果等について話し合われた記録が残されていない。	会議で自己評価及び外部評価結果、目標達成計画等を議題として話し合い、出された参加委員の意見や提案等を事業所運営に反映し、その記録を残していくことを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取り合い、日々の活動報告や今後の活動計画についての助言をもらったり、事業所で解決しにくい問題などが起こった時には、対応が後手に回らないように相談をして連携をとるよう努めている。	町担当課や地域包括支援センター職員とは日頃から困難事例を相談し、助言等を受けている。地域包括支援センター職員は、時々事業所の食事やカフェにも参加しており、実情の理解に基づく協力関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者やすべての職員が、身体拘束に関わるすべての行為を十分に理解し、それを禁止した上で拘束をしないケアに取り組んでおり、事業所開所以来、日中は玄関の施錠をしていない。	職員は身体拘束等に関する研修を受け、伝達講習により互いに理解を深めている。行動を制止する言葉遣いには職員同士が注意し合い、利用者には理由を説明して自尊心を傷つけない対応を心がけている。日中は施錠せず、外出傾向のある利用者には寄り添い、近所から情報の協力も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、虐待について理解し、利用者だけでなく、職員の身体及び精神状態の変化を察知できるよう努めている。また、虐待と疑わしい行為があったときには、速やかに管理者に報告を行い、対応を検討することで虐待の防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する制度を学ぶ機会を持ち、必要があれば制度の利用に向けて、関係者との話し合いや手続きのお手伝いをしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、パンフレットや契約書、重要事項を用いて十分な説明を行い、理解と納得を得たうえで契約締結を行っている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回実施している家族会にて、家族同士で話し合った要望や意見などを聞く機会を設けている。また、家族会以外であって、個々に頂いた要望や意見は、すぐに職員間で話し合いをもち運営に反映させている。	家族会は年2回(3月・9月)開催し、ほぼ全家族の参加がある。会では事業所からの報告や利用者のエピソードなどを話して食事で交流し、家族同士の話し合いも1時間程度行っている。話し合った事項は家族代表者が意見集約して事業所に伝え、記録して事業所運営に反映している。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会で出た意見や提案などを、代表者に伝える機会を持ち、施設運営に反映させている。	職員会は月1回全職員が参加して開催している。管理者は職員の意見をできるだけ現場でも聞ける機会をつくり、職員の意見から、遅出の時間変更や職員の外出日程を調整して、利用者の見守り体制を整えたり、事業所運営に反映するよう努めている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の勤務状況や努力実績を代表者に伝え、個々の業務状況に応じた立場への昇進や手当など、これからも続けて働きたい、やりがいのある職場になれるよう、職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を含む職員全員が研修を受ける機会をもち、職種や部署によっては、個々のスキルアップを目指したものや、資格取得に向けた希望する研修を受けられるよう勧めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、所属しているサービス事業所の研修会や懇親会に参加し、他事業者と交流を持ったり、他事業所の取り組みなどを学習できる機会をもっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には本人の意向を確認したうえでサービス提供に繋げ、本人にとって「かいな」が安心して生活できる場となれるよう関係づくりに努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に家族の意向も確認し、担当者が今後、利用者の事についての連絡調整や要望に対応していくことを伝え、これからの生活に抱いている不安が少しでも軽減できるよう関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入段階で、本人と家族の意向を確認したうえでアセスメントを実施し、本人にとって必要なサービスの見極めを行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者に対し、一方的にサービス提供者になるのではなく、「かいな」で生活を共にする者同士として、互いの役割を確認しあいながら相手の立場を尊重した対応を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されても家族との関係が途切れることがないよう、医療面での対応であったり、施設での行事ごとには家族参加を目指している。また担当職員が、家族と利用者を繋ぐパイプ役として、共に支えていくという立場で、家族との関係も築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた家族や友人との関係が途切れないように、いつでも訪れやすい事業所づくりに取り組み、訪問者と職員もコミュニケーションが取れるよう、良い関係を築けるよう努めている。	地域の美容師や馴染みの理容師が出張して散髪等をしてきている。時折り町内の利用者ゆかりの場所へドライブしたり、友人との電話連絡や会話等の支援、夏祭り際には事業所を開放し友人・知人に集まってもらうなど、機会や場を捉えて関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	狭い空間の中で、入居者全員にまんべんなく関わるようにし、誰もが孤立することが無いように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、「かいな」で生活を共にしたという関係を大切に、夏祭りやカフェなど、外部からでも訪れやすい行事を企画し、本人や家族の経過フォローや相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いや希望が叶うように、一人一人の意向の把握に努めている。また、本人が意向を伝えられない場合は、身近に関わりのある人に本人の思いを聞くなど、できるだけ本人の思いが聞けるよう努めている。	入居時に本人や家族から思いや意向を聞き、入居後も日々の生活の中での会話や行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。言葉による把握が困難な場合は表情等で推察し、家族や近親者から情報を得て本人本位に思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握し、今までの生活の中で大切にしてきた馴染みの暮らし方や生活環境を参考に、「かいな」で安心して暮らせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活歴から、一日をどのように過ごして頂くか、職員全員で検討しサービス提供できるよう努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人のサービス計画を、介護計画作成者だけでなく、家族や職員全員で検討し、それぞれの意見を反映した計画書を作成している。	担当職員からアセスメント・モニタリングによる情報や気付き・意見などを聞き、また家族の意向も踏まえて、毎月職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。実施に伴う気付きや意見は連絡ノートで共有して6カ月ごとに見直し、状態変化や家族の意見があればその都度見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践については個別に記録を残し、職員間で情報の共有ができるようにしている。そしてその情報をもとに、介護計画のモニタリングや見直しに活かすようにしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所内でのサービスだけでなく、個々の状況に応じた支援やサービスの導入を心がけている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所での生活であっても、本人が今まで自宅で生活する中で大切にしてきた暮らしが実現できるよう、地域資源を把握活用できるように努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族の役割として、必ず家族が実施するようにお願いしている。また、事業所内で必要な情報などは家族に伝えたり、直接主治医に伝えるなどして、適切な医療が受けられるよう努めている。	入居時に、本人及び家族の希望する医療機関へ家族による付き添いで受診することについて了解を得ている。受診に必要な情報は、事業所から医療機関に文書や電話で提供している。受診結果は同行した家族から報告を受け、連絡ノートやケース記録に記載して共有している。緊急時や家族の都合がつかない場合は職員が対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、常に利用者の状態の変化に注意をし、支援する中で気づいた健康面の相談は看護師に伝え、受診の必要性など適切な対応ができるよう支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、病院と情報交換を行い、早期に退院できるよう連絡調整に努めている。また、入院前の状態と身心状況に大きな変化がないか、入院中に病院を訪問し、病院関係者から情報をもらったり、今後の対応の助言をもらったりしている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応については、医療のバックアップ体制の充実が確保できる事を条件に、いつでも受け入れができるよう、日頃から看護師を中心に、終末期ケアの在り方についてチームで検討を行っている。	重度化・看取り対応指針を作成し、家族等に事業所の方針を説明している。重度化や終末期の状態と主治医が判断したときは、家族や医師と医療連携に関する相談をしながら、家族の意向に沿った終末期ケアを支援することとしている。事業所では管理者を含め2名の看護師による対応が可能である。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は緊急時の対応に困ることが無いように、日頃から応急処置や初期対応の仕方を確認している。また、365日24時間を通じて、看護師及び管理者が相談に乗れるよう対応している。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や自然災害時に対応ができるよう、消防署の協力を得、年2回は避難訓練を行っている。また防災訓練は防災委員や地域住民へ呼びかけをし、災害時には協力体制が築けるよう共同で訓練を行っている。	事業所で行う年2回の防災訓練には消防署の協力と地域住民数名の参加が得られている。地域の防災訓練には地域の一員として参加し、協力関係を築いている。事業所の貯水タンクに5日分の水を用意し、災害時の備蓄品としてガスコンロ・米・味噌汁・乾パン・乾物等を3日分確保している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として敬う気持ちを忘れず、一人一人の今までの生活や人格を尊重して、プライドを傷つけたり、プライバシーを侵すことなく支援する事を心がけている。	トイレや入浴等への誘導時の声かけや、居室へ入室する際には利用者一人ひとりの人格尊重とプライバシーに配慮した言葉遣いや対応に努めている。職員は採用時にプライバシー保護に関する誓約を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活のなかで、できるだけ対話する時間を持ち、本人と良い関係を保つことで、日頃から思いを表出できるような環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の決まりもあるが、個々のペースやそれまでの生活歴から、その人が望む生活に近づけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力のもとに、その人らしい服装や髪型、自分の好みにあったおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前のテーブル拭きやおしぼりの準備、また野菜の下ごしらえなど、できる方には一緒に手伝ってもらって行っている。	職員が献立を作成して、管理者がチェックしている。野菜を中心に利用者の好む煮物を必ず付けるようにし、特に誕生日や行事食は嗜好に配慮している。野菜の下ごしらえや米とぎ、テーブル拭きなど利用者は出来る事を手伝い、利用者と職員は家族団欒の雰囲気と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養が偏らないように注意して献立を考えている。また、食事形態も工夫し、軟飯やお粥、粗刻みから極刻み、トロミ付けなどの対応を行っており、食事量と水分量や体重の推移などもチェックして必要な栄養や水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の力に応じて、できる部分は見守り程度で、毎食後の口腔ケアは必ず職員と一緒にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、その方の排泄パターンをつかむ事で、声かけをしたり誘導も含めて、失禁を減らすような支援を心がけている。また、今まで紙パンツを使用していた方であっても、対応が可能と判断すれば、布パンツに変えるよう努めている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表から利用者個々の排泄パターンを把握して支援している。布パンツ、尿取りパッド、紙パンツは利用者の排泄状況に合わせて選び、夜間や昼間で使い分け、出来るだけ失敗の少ないトイレ誘導に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者に関しては、水分量や食事内容、運動などの働きかけを行い、自然排便に繋がる支援を考慮して対応している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上入れるように支援している。また、石鹸やシャンプーにこだわりがある人は、入浴時に個別に準備して洗髪・洗体を行い満足のいく入浴ができるよう努めている。	入浴は職員数が多い午後の時間帯に設定している。利用者の希望に沿いながら、少なくとも週2回は入浴するように支援している。汚れた時や夏場はシャワー浴や清拭なども併用して清潔保持に努めている。拒否する利用者には時間や日を変えたり、職員交代や言葉かけの工夫で対応している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活で休息をしていたタイミングは守るが、時間が長くなって午睡をしたことで夜間不眠にならないよう助言も行き、夜間にぐっすり眠れる環境を整えている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬情報は保存し、いつでも確認できるようにし、用法や用量を守って服用できるよう努めている。また、服薬時にそれらをしっかりと確認した上で、正確に服薬ができるよう支援している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのできること、できないことを見極め、日々の生活に張りやりズムができるよう、楽しみであったり気分転換ができるような支援に努めている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望により、日常的に戸外に出る時間を設け、季節感を味わったり、地域の方と関われる機会をもてるよう支援している。	日常的には週2日事業所近辺を散歩している。外出は大型スーパーでの買い物や料理店等での食事、四季折々の花見や植物園、公園など利用者の希望に合わせて月1回は遠出をしている。車椅子の利用者も母体法人の車を用意して一緒に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、外出時に担当の利用者と一緒に、欲しい物を買って支払いができるよう、お金の管理を共に支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	使える人は携帯を持ち込んでおり、いつでも家族からの電話が受けられるようにしている。また、本人から希望があれば、施設より家族へ電話をしたり、手紙のやりとりができるようにしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを大切に、施設というよりは大きな家のイメージで、季節感を取り入れるために飾り付けをしたり、季節の花を飾ったりの工夫をしている。	居間兼食堂の台所は対面になっており、調理する職員が利用者を見守り、調理の匂いや様子で生活感を出している。天井は高く梁が見え、窓からの採光も良く空間に開放感がある。壁面には利用者作成の折り鶴を飾り、フロアには四季の花が活けられ季節感のある落ち着いた過ごせる場所になっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で、座る位置を近くに構えたり、それぞれが会話している状況を、職員が邪魔しないよう努めている。また、リビングには、テーブルと椅子だけでなく、ソファや畳の部屋などをかまえ、思い思いの場所でくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台と空調以外は、本人の家から持ち込んでもらい、馴染みの物を配置することで、安心できる空間づくりに努めている。	居室には出来るだけ自宅で使用する物を持参してもらっている。神棚や位牌を持参している利用者や家族が孫の写真を居室に飾っている利用者があり、また、自分の趣味で広告の切り抜きを貼る利用者もいたり、自分らしく過ごせる居室になっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部では、できることに関してはそのまま、できない事だけ一緒に付いて支援する。そうすることで、本人が安全と安心できる施設になるよう努めている。尚、室内は今も手すりをつけていない。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない